



旧揖斐川橋を渡河する選手たち＝大垣市新関町

秋風切り、銀輪で揖斐川快走！

初開催 『ツール・ド・西美濃』



濃尾平野の西部に位置する西美濃の魅力を発見し、まち並みや自然を楽しみながら、ぐーり一周約120キロをグループで走るサイクリングイベント「ツール・ド・西美濃」が9月27日（土）、大垣市あさなか浅中公園総合グラウンドを発着点として開催されました。

大垣商工会議所や大垣青年会議所、大垣市、安八町、輪之内町など2市9町で構成する実行委員会の主催で、今回が記念すべき第1回目の大会となります。県内外から500人のサイクリストが参加し、選手らは秋風を切ってカラフルなロードバイクを走らせ、6か所に設けられた、おもてなしステーション（OS）では、地元食材が振る舞われ、地元の人たちの温かいおもてなしを受けました。



住吉燈台（大垣市）



結神社（安八町）



田んぼアート（輪之内町）

旧揖斐川橋（国指定重要文化財）の新たな活用に向けて！



筆者は地元沿川の方々と、息を上げながら旧揖斐川橋を渡る選手たちに声援を送り、選手たちは川面からの心地よい風を頬に受けながら、気持ちよさそうに駆け抜けていきました。

130年の歴史をもつ旧揖斐川橋は、明治19年（1886）に鉄道橋として竣工。大正2年（1913）に道路に転用した後、平成9年（1997）に歩行者・自転車専用橋となり現在に至っています。今回、イベントを通じて、歴史的価値のある土木構造物が、その一端を担い活用されました。

おもてなしの心熱く！`道の駅「池田温泉」`など

池田町の名産品の1つである、高校生がつくる「茶っぷりん」が選手らに振る舞われました。筆者も、現地で小川敏・大垣市長と語らいながら「茶っぷりん」を食し、現地スタッフと一緒に、選手に声援を送りました。



池田町が岐阜農林高校と
コラボレーションで開発した茶っぷりん



OSで地元の特産品を楽しむ選手ら



次のポイントに向けて出発を待機する選手ら



選手として参加された、
`自転車芸人`こと、タレントの
安田大サーカスの団長・安田さん
と談笑しながら記念撮影をさ
せていただきました。

＝池田温泉「足湯」

※ご本人の承諾を得て写真掲載しています。